

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年8月30日

【四半期会計期間】 第47期第3四半期(自平成31年4月21日 至 令和元年7月20日)

【会社名】 株式会社キタック

【英訳名】 KITAC CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中山正子

【本店の所在の場所】 新潟市中央区新光町10番地2

【電話番号】 025(281)1111

【事務連絡者氏名】 経理部長 藤巻 勉

【最寄りの連絡場所】 新潟市中央区新光町10番地2

【電話番号】 025(281)1111

【事務連絡者氏名】 経理部長 藤巻 勉

【縦覧に供する場所】 株式会社キタック 東京支店
(東京都台東区柳橋2丁目14番4号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第46期 第3四半期累計期間	第47期 第3四半期累計期間	第46期
会計期間		自 平成29年10月21日 至 平成30年7月20日	自 平成30年10月21日 至 令和元年7月20日	自 平成29年10月21日 至 平成30年10月20日
売上高	(千円)	1,955,143	2,226,987	2,473,427
経常利益	(千円)	244,316	297,458	252,391
四半期(当期)純利益	(千円)	164,612	200,624	168,357
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	479,885	479,885	479,885
発行済株式総数	(株)	5,969,024	5,969,024	5,969,024
純資産額	(千円)	2,374,047	2,513,557	2,377,276
総資産額	(千円)	5,181,941	5,431,513	5,262,964
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	29.39	35.82	30.06
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			7.00
自己資本比率	(%)	45.8	46.3	45.2

回次		第46期 第3四半期会計期間	第47期 第3四半期会計期間
会計期間		自 平成30年4月21日 至 平成30年7月20日	自 平成31年4月21日 至 令和元年7月20日
1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)	5.27	16.94

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

業績の概況

当第3四半期累計期間（平成30年10月21日～令和元年7月20日）におけるわが国経済は、生産及び輸出でやや弱含んでいるものの、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、設備投資、個人消費が牽引する形で、引き続き緩やかな回復基調を維持しています。また、海外では、米国の景気回復は継続しているものの、中国経済の減速や流動的なユーロ圏経済の影響等から、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しています。

こうしたなか、建設コンサルタント業界を取り巻く経営環境は、防災・減災、老朽化した公共インフラの維持・補修関連をはじめ、環境に配慮した持続可能な社会形成など、社会資本整備に対するニーズの多様化に伴い、企業に対し、優れた技術力が求められるとともに受注競争が激化しています。一方で、国が策定した「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に基づく事業が集中的に実施されることが見込まれていることから、この分野における市場の拡大も期待されています。

当社としましては、主力の地質・地盤調査、防災・土木設計事業で培った技術力と「防災・減災業務」に係る豊富な経験と実績を活かして、受注機会の確保に努めてまいりましたが、当第3四半期累計期間の受注高につきましては、17億9千8百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

一方、売上高は、前年同期比13.9%増の22億2千6百万円を確保し、営業利益2億7千7百万円（前年同期比24.9%増）、経常利益2億9千7百万円（同21.8%増）となり、四半期純利益は2億円（同21.9%増）となりました。

なお、セグメント別の業績は以下のとおりであります。

（建設コンサルタント事業）

建設コンサルタント事業の当第3四半期累計期間の業績は、完成業務収入20億9千5百万円（前年同期比14.9%増）、売上総利益7億3千1百万円（同12.7%増）となりました。

（不動産賃貸等事業）

不動産賃貸等事業の当第3四半期累計期間の業績は、不動産賃貸等収入1億3千1百万円（前年同期比0.0%増）、売上総利益4千4百万円（同55.1%増）となりました。

売上高の季節的変動について

当社は、国、地方公共団体をはじめとする公共部門との取引が主体であり、納期等の関係から、売上高が特定の四半期に偏る傾向にある反面、経費は概ね各四半期に均等に発生することによる季節変動がみられます。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末の資産合計は、54億3千1百万円（前事業年度末比1億6千8百万円増）となりました。

主な増減内訳は、現金及び預金（同5億5千5百万円増）、受取手形及び完成業務未収入金（同1億5千7百万円減）、未成業務支出金（同1億6千6百万円減）等であります。

負債合計は、29億1千7百万円（前事業年度末比3千2百万円増）となりました。

主な増減内訳は、短期借入金（同1億5千万円減）、1年内償還予定の社債（同3億円増）、長期借入金（同1億2千7百万円減）等であります。

純資産合計は、25億1千3百万円（前事業年度末比1億3千6百万円増）となりました。

主な増減内訳は、利益剰余金（同1億6千1百万円増）等であります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針につきましては、特に定めておりませんので、記載すべき事項はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (令和元年7月20日)	提出日現在 発行数(株) (令和元年8月30日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	5,969,024	5,969,024	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	(注)
計	5,969,024	5,969,024		

(注)株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成31年4月21日～ 令和元年7月20日		5,969,024		479,885		306,201

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず記載することができませんので、直前の基準日である平成31年4月20日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

令和元年7月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 368,500		権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,598,600	55,986	同上
単元未満株式	普通株式 1,924		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,969,024		
総株主の議決権		55,986	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式75株が含まれております。

【自己株式等】

令和元年7月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社キタック	新潟市中央区新光町10番地2	368,500		368,500	6.17
計		368,500		368,500	6.17

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成31年4月21日から令和元年7月20日まで)及び第3四半期累計期間(平成30年10月21日から令和元年7月20日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社が存在しませんので四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年10月20日)	当第3四半期会計期間 (令和元年7月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	116,109	671,171
受取手形及び完成業務未収入金	232,897	75,605
未成業務支出金	517,123	350,279
貯蔵品	3,892	4,406
その他	24,953	28,129
貸倒引当金	584	203
流動資産合計	894,391	1,129,388
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	252,180	241,434
工具、器具及び備品(純額)	461,009	462,393
賃貸資産(純額)	854,522	820,319
土地	2,354,153	2,354,153
その他(純額)	37,204	54,695
有形固定資産合計	3,959,070	3,932,996
無形固定資産	56,225	46,264
投資その他の資産		
投資有価証券	257,138	224,920
繰延税金資産	64,299	62,405
その他	31,847	35,546
貸倒引当金	9	7
投資その他の資産合計	353,276	322,864
固定資産合計	4,368,572	4,302,125
資産合計	5,262,964	5,431,513
負債の部		
流動負債		
業務未払金	91,796	40,584
短期借入金	300,000	150,000
1年内償還予定の社債	-	300,000
1年内返済予定の長期借入金	170,000	170,000
未成業務受入金	198,824	217,392
未払法人税等	65,446	49,809
賞与引当金	53,029	30,650
業務損失引当金	6,530	13,400
その他	185,137	237,959
流動負債合計	1,070,764	1,209,796
固定負債		
社債	450,000	450,000
長期借入金	1,020,000	892,500
退職給付引当金	83,685	95,665
役員退職慰労引当金	189,707	191,879
その他	71,530	78,113
固定負債合計	1,814,923	1,708,158
負債合計	2,885,688	2,917,955

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年10月20日)	当第3四半期会計期間 (令和元年7月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	479,885	479,885
資本剰余金	306,201	306,201
利益剰余金	1,665,820	1,827,241
自己株式	110,526	110,526
株主資本合計	2,341,380	2,502,801
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	35,896	10,756
評価・換算差額等合計	35,896	10,756
純資産合計	2,377,276	2,513,557
負債純資産合計	5,262,964	5,431,513

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期累計期間 (自平成29年10月21日 至平成30年7月20日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年10月21日 至令和元年7月20日)
売上高	1,955,143	2,226,987
売上原価	1,277,143	1,450,839
売上総利益	677,999	776,147
販売費及び一般管理費	455,902	498,837
営業利益	222,097	277,310
営業外収益		
受取利息	14	38
受取配当金	4,599	5,284
業務受託手数料	46,460	53,713
匿名組合投資利益	9,819	7,630
その他	6,395	4,026
営業外収益合計	67,288	70,693
営業外費用		
支払利息	20,443	15,766
社債利息	998	1,071
業務受託費用	18,817	24,833
その他	4,808	8,874
営業外費用合計	45,068	50,545
経常利益	244,316	297,458
税引前四半期純利益	244,316	297,458
法人税、住民税及び事業税	72,964	92,006
法人税等調整額	6,739	4,827
法人税等合計	79,703	96,834
四半期純利益	164,612	200,624

【注記事項】

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期累計期間(自平成29年10月21日 至平成30年7月20日)及び当第3四半期累計期間(自平成30年10月21日 至令和元年7月20日)

当社は、官公庁取引が大半を占める事業の性質上、売上高が第2四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向があり、各四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成29年10月21日 至平成30年7月20日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年10月21日 至令和元年7月20日)
減価償却費	71,024 千円	71,235 千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成29年10月21日 至平成30年7月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年1月18日 定時株主総会	普通株式	28,002	5.00	平成29年10月20日	平成30年1月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自平成30年10月21日 至令和元年7月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成31年1月17日 定時株主総会	普通株式	39,203	7.00	平成30年10月20日	平成31年1月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成29年10月21日 至 平成30年7月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	建設コンサルタント事業	不動産賃貸等事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,823,959	131,183	1,955,143
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	1,823,959	131,183	1,955,143
セグメント利益	649,443	28,556	677,999

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自 平成30年10月21日 至 令和元年7月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	建設コンサルタント事業	不動産賃貸等事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	2,095,739	131,247	2,226,987
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	2,095,739	131,247	2,226,987
セグメント利益	731,844	44,303	776,147

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成29年10月21日 至平成30年7月20日)	当第3四半期累計期間 (自平成30年10月21日 至令和元年7月20日)
1 株当たり四半期純利益金額	29円39銭	35円82銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	164,612	200,624
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	164,612	200,624
普通株式の期中平均株式数(株)	5,600,450	5,600,449

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年 8月29日

株式会社キタック
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 尾 雅 樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安 藤 武 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社キタックの平成30年10月21日から令和元年10月20日までの第47期事業年度の第3四半期会計期間(平成31年4月21日から令和元年7月20日まで)及び第3四半期累計期間(平成30年10月21日から令和元年7月20日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社キタックの令和元年7月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。